

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	次のステップに向けて取り組みたい内容	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	11	今後も両ユニットの現状把握を行い、職員個々の思いに寄り添うと共に、系列ホームの職員も一緒に、以前行われていた研修を再開し、職員全体の更なるレベルアップに繋げていく予定である。	両ユニットが互いに助け合って利用者を中心に据えた認知症ケアを実践できるような体制を整えると同時系列ホームの職員も含めてスキルアップを図る	両ユニットが協働して利用者やその家族及び地域の方々に信頼されるよう「職員研修実施要綱」にそって、職員の経験年数等に応じた職場内研修を実施していく。	3 ヶ月
2	26	今後は24時間全ての支援を明記した日課表(3)を作成し、ご利用者個々の暮らしぶりや介護内容、留意点などを家族と共有していく予定である。	ご利用者個々が活躍できる場面などを考え、それを日課表に記入して家族と共有できる関係を整える。	介護計画書の3表を作成し、その内容を家族と共有して実践できる事は実践に繋げていく。そのために家族等が訪れた時に様々な話し合いから情報の共有が図れるよう取り組んでいく。	6 ヶ月
3	35	災害に備えて、カセットコンロ、米、缶詰は常時保管している。今後も系列ホームと連携し、3つのホームで賞味期間をずらしてながら、備蓄を増やしていく予定である。	一人1日3食の食材と飲料水を3日分を備蓄するようにする。系列ホームと購入時期をずらすことで備蓄期間の調整を行っていく。	備蓄年数5年の物で、食品、飲料水についてその品名の選定、簡易トイレ等非常時に最低限必要な物品など系列ホームと調整して購入、その備蓄場所も考える。	12 ヶ月
4	49	今後は更にドライブや買い物等の外出を増やして行きたいと考えている。家族との外出や自宅への帰宅が減っており、家族との話し合いを続けながら、「帰りたい」と言う願いを叶える方法を検討していく予定である。	買い物や散歩、家族との外出等の機会を増やし、四季の移ろいを肌で感じながら願いを叶えられるように支援する。	地域行事、ドライブ及び買い物への同行などその日その時に声掛けするようにする。同時に家族との外出の機会を家族と話し合いながら取り組んでいく等外出の機会を増やしていく。	6 ヶ月
5					ヶ月